



CADEP SFM ニュース

持続的森林管理のための能力開発プロジェクト - ケニア

2017年12月-No.5

プロジェクト全体

今回のニュース

森林政策

パイロット事業

REDD+

育種

地域協力

*各活動の連携については、プロジェクトの展望図をご参照ください。

REDD+の TWG 会議と関係者ワークショップの開催（2017年11月）

ケニア国持続的森林管理のための能力開発プロジェクト（CADEP-SFM）における REDD+ 準備段階コンポーネントでは、2017年11月29日（水）～12月1日（金）の3日間で、REDD+技術部会（Technical Working Group ; TWG）と関係者ワークショップを開催しました。今回の協議の最大の焦点は2018年1月に UNFCCC へ提出することを予定しているケニアの森林参照レベル¹（Forest Reference Level ; FRL）の最終承認です。最初の2日間の TWG において、これまで1年間かけて検討してきた、FRL 設定の条件（ケニアにおける森林定義²、森林の分類、対象とする FRL の期間³や時点数⁴等）と、それに基づいて算出されたケニア国における森林セクターからの二酸化炭素排出量について確認しました。また、今年の10月に REDD+の成果支払いを行う緑の気候基金（Green Climate Fund ; GCF）から、成果支払いを検討する際のスコア表が発表されたため、このスコア表に基づき、ケニアの設定してきた FRL 設定条件を見直しました。この結果、これまでケニアが設定していた FRL 期間を修正する必要があることが判明し、FRL の期間を TWG 内で協議し再設定しました。こうして TWG 内でケニア国の FRL の設定条件の詳細が共有、合意されたのち、3日目の最終日に、TWG メンバーと、TWG メンバー以外のケニア国の関係者、さらに他ドナーやケニア国内の NGO 等が参加した関係者ワークショップを開催し、TWG で決定された FRL についてその内容を共有し、意見交換を行いました。最初の2日間の TWG

¹途上国が REDD+の成果支払いを受けるために作成することが求められている。REDD+活動が実施されなかった場合の森林分野の将来の温室効果ガスの推定排出量・吸収量のことであり、実際の排出・吸収量との差分を測るベンチマークとなる。

² ケニアにおける森林定義は、最小面積 0.5ha、樹高 2m 以上、被覆率 15%以上

³ FRL（森林からの排出量の将来予測シナリオ）を作成する際に参照とする過去の期間（例：2000年～2015年、2006年～2016年等）

⁴ 過去の期間のうち、どのデータをいくつ使用するかということ（例：2000～2015年のうち、2000年、2005年、2010年、2015年の4時点を使う、2000年と2015年の2時点を使う等）

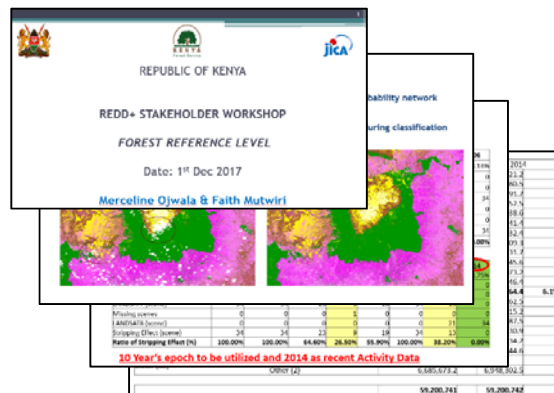
では日本人専門家も発表を担当し、質問に対する対応を行ったのですが、関係者ワークショップはケニアの TWG メンバーがプレゼンテーション資料の準備、発表と質問への対応全てを行いました。発表し、質疑応答に対応するには、FRL のことをきちんと理解していなくてはできません。この関係者ワークショップでの TWG メンバーと関係者の議論を通じて、ケニアにおける FRL の作成が進んだだけでなく、ケニアの TWG のメンバーが自国の FRL について理解し、その課題や今後の改善点等をきちんと把握しているということが示されました。

なお、TWG と関係者ワークショップでは FRL の他に、ケニアの国家森林モニタリングシステム⁵ (National Forest Monitoring System ; NFMS) についても、その概要や機能について議論を行いました。ケニアの NFMS については、その構築は始まったばかりですが、TWG を通して、今後どのような活動が必要になってくるかを確認し、関係者ワークショップにて、プロジェクトの中でケニア側と協力して NFMS の構築に取り組んでいくことを他のドナーを含んだ関係者に周知することができました。

REDD+の準備活動は、作り上げてしまえばおしまいというものではありません。FRL であれば、設定期限が過ぎれば次の FRL を開発する必要があり、NFMS であれば実施しながら、必要に応じて見直し、改善していくことが必須です。このため、日本人専門家は時間がかかっても、開発するまでのプロセスをケニア側がきちんと理解し、プロジェクト終了後に彼ら自身で開発・運営できるようになることを目指して、何度も内部協議を重ねて FRL や NFMS を構築しています。今回の関係者ワークショップでのケニア側の発表と対応は、こういった積み重ねの成果が現れたものとなりました。今後もケニア側の主導を尊重しながら、よりよい形でケニアの REDD+準備が整うよう支援をしていきたいと思います。



関係者ワークショップの様子



TWG メンバーが作成した発表資料の一部

⁵ 途上国が REDD+の成果払いを受けるために確立することが求められている森林をモニタリングするシステム。衛星画像を利用した森林の面積変化と地上調査に基づいた森林の炭素蓄積量をもとに森林による炭素の排出・吸収をモニタリングする等、広く国内の森林の管理等に貢献するシステム。